第３回湖南市図書館基本計画策定委員会　議事録

■開催日時　　令和８年 10 月 16 日（木）　午後 12 時 30 分～14 時 30 分
■開催場所　　湖南市立甲西図書館　２階　視聴覚室
■出 席 者　　図書館基本計画策定委員７人
事務局７人
■傍 聴 人　　10 人

１．開　　会
［会長あいさつ］
［教育長あいさつ］

２．議　　事

【会長】
それでは議事を進めてまいります。本日の次第では議事は３つですね。
１つ目が「湖南市図書館基本計画案について」、２つ目が「アンケート調査の結果について」、３つ目が「先進地視察について」と、事前にご案内をいただいております。
それではまず、１つ目の「図書館基本計画案について」、事務局よりご説明をお願いいたします。

【事務局】
それでは、資料１「図書館基本計画案」から説明させていただきます。
これまでの第１回、第２回の会議にお示しした資料、および皆様からいただいたご意見などを反映し、現時点の計画案としたものでございます。またこの後は、市民アンケートの結果なども踏まえまして、修正や加筆などを行ってまいります。それでは、主な点についてご説明をさせていただきます。
まず、２ページをご覧ください。「はじめに」でございます。
これまで図書館は、市民の学びの交流や地域の情報支援を行う大切な場として長年機能してきました。しかし、人口の減少や少子高齢化が進む中で、図書館の役割を整理し、よりよいサービスを目指す必要がございます。この計画は、こうした背景を踏まえてこれからの図書館のあり方を示し、地域に親しまれる施設としての魅力向上を目指すものとしたものでございます。
次に、基本方針について４ページおよび５ページに記載してございます。
湖南市図書館基本計画は、人口減少や高齢化の進展に伴う地域の課題を踏まえ、資料の収集、保存、提供や読書の推進活動に取り組んできたこれまでの実績を基盤としながら、限

られた資源を効果的かつ安定的に活用し、市民のニーズに応え続ける図書館サービスの提供を目指していくとしております。

計画の位置づけとしましては、第３次湖南市総合計画および第３期湖南市教育振興プランと整合させながら、市民サービスの向上と効果的な運営を目指すものとしております。

６ページは、SDGs との関係を示しております。持続可能な社会の実現を見据え、目指す方向性と SDGs を整合させており、特に「質の高い教育をみんなに」や「住み続けられるまちづくり」といった項目など、５つの目標に直結しているものでございます。

次に、７ページから９ページまでは「図書館を取り巻く現状と課題」としております。

９ページに、湖南市を取り巻く状況を書かせていただいております。

本市におきましても、人口の減少や少子高齢化が進んでおります。人口構造の変化や限られた財政環境の中でも、持続可能な図書館サービスの維持や発展が必要となっております。市民の多様な意見を取り入れるために、現在、アンケートやワークショップなどを開催してまいりました。利用者のニーズを把握するとともに、地域と連携した図書館サービスの充実を図っていく必要があるということを記載しております。

次に、11 ページでございます。11 ページから 14 ページまでは、９月 26 日に開催いたしましたワークショップについて、「図書館であなたがしたいこと」「図書館だからできること」をテーマに意見交換を行っていただいた内容を掲載しております。

12 ページには主な意見やアイデアとして、テーマに合致するものを掲載しております。なお、会場での全ての意見につきましては、「資料２」としてお配りしているものでございます。

次に、15 ページでございます。こちらは「地域まちづくり協議会ヒアリング」のページとなってございます。今月の最終週に、７つの地域まちづくり協議会に対し、地域での読書環境や、図書館とともに連携できる事業などは何かということをお伺いする予定としております。

16 ページから 19 ページにつきましては、「個別領域における現状と課題」としております。現状と課題につきましては、ワークショップでのご意見を反映して作成しております。そしてこの後、市民アンケートの結果やヒアリングさせていただいた内容についての要望などを反映させていきたいと考えております。

次に、20 ページから 22 ページでございます。こちらは「基本理念」等を記載してございます。

「暮らしの中に図書館を 人と知と文化が交わるみんなの図書館」を理念に据え、知識の伝達に加えて交流や居場所づくりを重視したものとさせていただいております。そして 21 ページの基本方針の１つ目が「知識と文化の情報拠点づくり」、２つ目が「癒やしや育みの居場所づくり」、そして３つ目が「交流と発信の創造空間づくり」の３つの柱としております。そして、22 ページからは基本方針に基づく５つの基本目標としてございます。基本方針に続き、図書館が目指す５つの基本目標を掲げております。

そして、23 ページおよび 24 ページが体系図でございます。ページがまたがってしまいましたが、こちらは見開きで見せられるように調整したいと考えております。

次に、25 ページからでございます。第４章「今後の基本施策と具体的な取り組み」では、湖南市の図書館の今後の基本施策と具体的な取り組みについて記載しております。

まず、「地域の情報文化の拠点となる図書館の形成」としまして、幅広い資料の収集や保存を推進するとともに、利用者のニーズを把握し、多様な社会環境の変化に柔軟に対応していく方針を示しております。そして、電子書籍や多言語資料の拡充も視野に入れております。

次に 26 ページをご覧ください。「市民の学びを支える図書館サービスの充実」では、レファレンスサービスの充実や職員の専門性向上などを掲げております。

そして 27 ページの「子どもの読書と豊かな育みを支えるサービスの展開」におきましては、乳幼児期から児童期にかけての読書支援の充実や、学校、幼稚園、保育園等との連携による子どもたちの読書環境づくりを推進するとしております。

そして 28 ページにつきましては、「誰もが利用しやすい快適な環境づくり」に関しまして、利用者の声を反映しながらユニバーサルデザインの推進やバリアフリー化を進め、誰もが快適に利用できる図書館空間の実現を目指すとしております。

29 ページは、「市民協働による価値の共創と多文化共生の推進」としまして、多様な市民団体や地域との連携強化、およびボランティア活動などの促進によって、市民とともに運営する図書館づくりを進めていくとしております。

次に、30 ページでございます。第５章「甲西図書館リニューアル基本計画」をどのように記載しているかについてでございますが、市全体の読書環境のイメージを明確にした上で、その中で図書館リニューアル基本計画を位置づけることが重要であると考えております。

全体の読書環境につきましては、先ほどご説明いたしました通り、今月末に地域まちづくり協議会へのヒアリングを実施いたします。市民アンケートのご意見も反映しながら、地域での読書環境や移動図書館の状況なども踏まえて資料を作成したいと考えております。

そして、この第５章の前段として、市全体の読書環境に関する部分を次回の会議でお示ししたいと考えております。

この甲西図書館リニューアル基本計画でございますが、令和７年度に「甲西図書館リニューアル基本構想」を作成しており、本計画はその基本構想を踏まえつつ、具体的な改修やサービスの向上策について述べているものでございます。

まず、これまでの老朽化や施設の機能面での課題を踏まえて、また利用者の皆様の意見やニーズを反映させた改修計画とさせていただいております。具体的には、バリアフリー化をはじめ、快適で安全な利用環境の整備を進めるとともに、子どもから高齢者まで多様な世代が利用しやすい空間づくりを目指しているものでございます。

31 ページには、甲西図書館の将来像というふうに書かせていただいております。また今後は、森北公園や文化ホールなどの周辺施設と連携していくことで、地域全体の文化の向上に寄与していく必要があると考えております。そして、リニューアルの前提条件やサービス、施設等の今後の方向性も示させていただいているものでございます。

33 ページからは、具体的な改修内容や取り組み内容の位置づけと、今後の進め方を示しております。そして、34 ページには利用しやすくより幅広い市民の皆様に届く図書館サービスの展開を、35 ページに関しましては、市民それぞれの居場所となる空間づくりを示しているものでございます。こうした計画によって図書館の利便性と魅力を高め、市民の学びや交流の場としての機能強化を目指してまいりたいと考えているものでございます。

そして、36 ページでございます。この計画は、PDCA サイクルを回しながら、湖南市図書館、図書館協議会、そして教育委員会による事業評価を行い、着実な実行と進捗管理を行っていきたいと考えております。

38 ページ以降は、人口の推移や外国籍市民の状況、そして図書館利用状況の詳細なデータを示しておりまして、計画策定のための裏付けとして活用しているものでございます。

説明は以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

【会長】

全６章にわたる基本計画案について、皆様からご意見を伺いたいと思います。

順不同でご意見をいただくと、内容が前後する可能性がありますので、計画案の章立てに沿って進めてもよろしいでしょうか。

まず、第１章、６ページまでについて、ご意見はありますか。

【委員】

上位計画について確認しました。特に問題はないと考えています。上位計画との整合性についても、問題ないと思います。

【会長】

前回の会議でも申し上げましたが、この委員会では、委員の皆様にご出席いただき議論を行っていただいております。事務局から、関連計画である「湖南市公共施設等総合管理計画」の考え方についてご説明を受けることがございますが、関連計画の一つとしての位置づけであり、議論の前提を拘束するものではないと私自身は認識しております。

今回の議論は、そうした計画の考え方を前提とするものではなく、委員の皆様の活発な意見を尊重するものであるということは、前回の事務局の答弁においても確認されております。そのことを踏まえ、本日も皆様からご意見をいただければと思います。

【委員】

気づいた点を申し上げますが、２ページの文章に、「図書館基本計画は、サービスを市民の皆様に届けるための道しるべとなるものです」とあります。

行政サービスとして捉えると、このような表現になるのは理解できます。しかし、図書館基本計画の冒頭で「サービスを届ける」と強調すると、図書館の役割を狭く捉えることにならないかと感じました。

市民とともにつくることや、市民が主体となることも重要な視点だと思いますので、この表現は見直してもよいのではないでしょうか。

【会長】

ありがとうございます。おっしゃるとおり、住民自治の観点から、市民の皆様とともにつくるという表現も考えられると思います。この点について、事務局としてはいかがでしょうか。

【事務局】

ご指摘を踏まえ、「サービスを届ける」という表現について、修正を検討します。

【委員】

５ページに、第３次湖南市総合計画および第３期湖南市教育振興プランとの記載があります。第３次総合計画は、委員に配付されていましたでしょうか。私の手元にないように思います。

具体的にどのような内容が記載されていて、図書館についてはどのように位置づけられているのでしょうか。説明をお願いします。

【事務局】

湖南市市総合計画は、第３次から冊子として印刷おりません。委員の皆様にお配りできていませんが、市のホームページに掲載しています。

総合計画では、まちづくりの目標を掲げています。その中の重要な政策テーマの一つに「生涯学習・生涯スポーツ」があり、生涯学習や読書環境の充実に関する項目に、図書館について記載されています。

読書環境の充実については、蔵書の充実、子どもが読書に親しむ機会や生涯学習の機会の充実、情報提供などを進めることが示されています。また、市民が気軽に図書館を訪れ、快適に利用できるよう、利便性やサービスの向上に向けた検討を継続し、世代を問わず、心の健康にもつながる読書環境の充実を図るとしています。

また、個別計画では、図書館の入館者数を KPI として設定しています。2030 年度の目標値は９万 3,000 人です。

総合計画 146 ページには、「読書環境の充実」として、施策の一つに「図書館機能の充

実」が位置づけられています。目指す姿として、効果的な情報発信と学習ニーズに応じたサービスの充実により、多くの市民が図書館を訪れ、本に触れる機会が増えることを掲げています。

実施方針としては、市民に開かれ地域に根ざした図書館運営、リニューアル、魅力ある蔵書の維持・更新、図書館利用の促進、全域サービスの充実、地域資料の収集と情報発信の推進を掲げています。

【委員】

図書館に関する内容は、上位計画である第３次総合計画では、図書館のハード面の整備や具体的な施設計画までは言及されていないということですが、私の確認が間違っていれば、事務局から訂正をお願いします。

【会長】

それでは続いて、７ページ以降の第２章「図書館を取り巻く現状と課題」について、ご意見をお願いします。

【副会長】

７ページの「国の政策動向」についてです。出典が記載されていますが、冒頭で会長が触れられた「図書館が拓く未来の学びと地域社会」という報告書をもとに書かれていると思います。

しかし、報告書を読む限り、「図書館は地域のハブや学校を中心とした役割を強めている」という表現ではなく、「その役割を目指している」という趣旨だと思います。出典を示して引用するのであれば、正確に記載してほしいと思います。自身の意図に沿って論点を変えてしまうのは適切ではありません。

もう一点、最初の箇条書きに「特に学校図書館は」とあります。私は学校図書館にも関わっていますので、取り上げていただくこと自体はありがたいのですが、この計画はあくまでも公共図書館の計画です。「特に」として学校図書館を取り上げる必要はないのではないでしょうか。

【会長】

ありがとうございます。出典との整合性や細かな表現についてのご指摘だと思います。事務局はいかがでしょうか。

【事務局】

出典資料を改めて確認し、表現を見直します。

【会長】
ありがとうございます。学校図書館への支援や連携は、公共図書館にとっても重要な柱だと思います。そのこと自体を否定されているのではなく、主語や記述の仕方についてのご指摘だと思います。修正をよろしくお願いします。

【委員】
７ページの「図書館を取り巻く現状と課題」について質問です。「人口減少が進む地域では、図書館は地域のハブや学校を中心とした役割を強めている」とありますが、これはどのような意味でしょうか。
地域のさまざまな拠点における図書館の役割や、図書館活動を強めていくという意味でしょうか。以前から話題に出ていますが、石部は図書館があります。一方で、下田など、図書館から遠い地域には、現在そうした機能がありません。この記述をどのように理解すればよいのか、伺いたいと思います。

【副会長】
ここは、先ほど申し上げたように、出典をもとに国の政策動向を書いている箇所です。湖南市の現状について記載しているわけではないと理解しています。そのため、ここだけを読んで、湖南市の地域の話として解釈するのは難しいと思います。

【事務局】
７ページは「国の政策動向」として、国が公表している資料から抜粋して記載しています。次のページには県の政策動向、その次の９ページあたりからは市の図書館を取り巻く状況を記載する構成です。したがって、７ページの記載は湖南市の読書環境について述べたものではありません。

【委員】
ここにこのように書かれているということは、その方向性を否定していないということですよね。
「国はこういう方向を示しているが、湖南市の考え方は別です」という記述ではなく、国の方針だけが書かれています。そのため、読者は、国の基準に沿って湖南市も計画を進めると理解すると思います。
国の方針であることは分かりますが、具体的に、その方針を踏まえて後の計画をどのように推進しようとしているのかを伺いたいです。

【事務局】
国全体として、図書館が目指す方向性が示されています。市の計画も、その方向性から

大きく外れることはないと考えていますが、実際の図書館運営やサービスの方向性については、地域性や湖南市の特色に合わせて定める必要があります。国の方向性と大きく異ならないようにしながら、計画を作成していければと考えています。

【会長】
ありがとうございます。国全体の方針を踏まえつつ、地域に合わせて計画をつくるというお答えでした。
私から提案ですが、国の政策動向と８ページの県の政策動向について、それぞれの記述の最後に、「こうした政策を踏まえ、湖南市としてはどのような方向を目指すのか」を１、２行加えると、計画との関係が明確になると思います。ご検討をお願いします。

【会長】
それでは、９ページの「市の図書館を取り巻く状況」の記述は、少し物足りないように感じます。人口動態や財政状況、市民ニーズ・意識の動向などが扱われると思いますが、10 ページに市民意識調査のアンケート結果が加われば、内容が充実するとおもわれます。
また、図書館を取り巻く状況について、市としてどのように分析しているのか、もう少し市としてのレビューが記述にあるとよいと感じました。

【副会長】
会長のご意見に補足いたします。38 ページ以降の資料編には、図書館の貸出冊数などが掲載されており、貸出冊数が減少している傾向も見られます。
このような図書館の現状を、計画策定にあたってどのように捉えているのか、なぜこの計画が必要なのかという分析や考え方を記載する必要があると思います。計画の中に書き込むとすれば、このあたりになるのではないでしょうか。
もう一点、ワークショップに力を入れて開催されたことはよく分かります。ただ、ワークショップは計画づくりのための手段の一つです。模造紙に多くの意見が集まった様子を見せるだけでは一つ一つの意見を読めるわけでもありませんし、「実施したこと」だけを強調しているように感じます。必ずしも掲載しなくてもよいのではないでしょうか。
グループ討議で出た意見についても、計画書に掲載されていると、読者から「この意見はどうなったのか」と疑問を持たれる可能性があります。意見をいただいたものの、計画に反映できないものもあり得ます。そうしたことを考えると、16 ページ以降だけでよいのではないかと思います。
さらに、16 ページの課題の並び順について伺います。「若年層の利用促進に向けた課題」が最初に置かれています。ワークショップの意見を反映し、事務局として非常に大事にしなければいけないと考えられたのだろうと思いますが、例えば、後の基本方針等とリンクする順番にする方法もあります。なぜこの順番になったのかご説明をお願いします。

【事務局】

16 ページ以降の現状と課題の順番についてですが、最初に「若年層の利用促進に向けた課題」を置いたのは、若年層の利用が少ないことが背景にあります。中学生頃から活動の幅が広がり、読書の時間や冊数が減る傾向も見られます。事務局として特に力を入れたい課題と考え、最初に記載しました。

それ以降の項目については、優先順位を明確につけることが難しく、内容の関連性やいただいたご意見などを考慮して並べています。２番目以降についてはご意見が多かったものや、関連があるものを近くしたりというような書き方構成とさせていただいております。

【会長】

もう一点、16 ページの３「個別領域における現状と課題」という見出しが、少し分かりにくいと感じました。「個別領域」とは何を指しているのでしょうか。サービスの対象なのか、セグメントなのか意味がつかみにくいです。

図書館の計画ですので、もう少し分かりやすい表現にできないかと思いました。分かりにくく感じたことを申し上げます。

【委員】

私もワークショップに参加しました。後ほど発言しようと思っていたのですが、第５章には甲西図書館のリニューアルが記載されています。その後すぐに第６章に進みますが、私個人の意見として、第５章と第６章の間に、今回の計画では対応しきれない課題や、今後さらに検討すべきことを整理する項目があってもよいのではないかと思います。

この基本計画は長期的なものです。計画は定期的に見直されると思いますし、次に新しいメンバーで検討する際にも役立つよう、今回の議論やワークショップ、アンケートの結果などを残しておくことが必要ではないでしょうか。

財政的な事情などから、甲西図書館のリニューアルで当面対応できるのはここまで、ということはあると思います。しかし、さらに充実させるためには何が必要か、次の見直しに向けて残しておくべき課題は何か、ということも記録しておいた方がよいと思います。市がすぐに実施すると約束するという意味ではありません。たとえば、地域によっては図書館へのアクセスやバスの運行などについて意見が出ていますが、甲西図書館のリニューアルだけでは解決できないこともあります。

第５章でリニューアルの内容を示す一方で、まだ解決できていない課題や、基本計画を実現するために今後必要となる取組を整理しておくのはどうでしょうか。行政に実施を約束してほしいということではなく、今回の委員会で議論したことを、今後の検討に引き継ぐための記録として残すことを提案します。

【会長】
ただいまのご発言は、先ほど「ワークショップで出た意見には実行可能なものも不可能なものも含まれており、柱立ての中でその内容がどうなったのかということになるのであれば、掲載しない方がむしろよいのではないか」というご指摘があったことに対し、「これから検討すべき素材というのがまだあるわけなので、そういったご意見も検証のところで参照できるように生かしてはどうか」というご意見であったと解釈いたしました。

【委員】
第２章に関連して、私も９ページ以降の「湖南市の図書館を取り巻く現状」について意見があります。
副会長もおっしゃっていましたが、基本計画をまとめる際には、現状を踏まえて、そこから将来の方向性を考えるという流れが大切だと思います。
これからつくる計画の柱立てや項目に合わせて現状を整理するのか、もしくは国や県の方針、一般的な図書館運営の考え方をもとに整理するのか、その点を明確にしないと、議論の着地点が定まらないと思います。
市民の意見を中心にまとめるとしても、たとえば、市民がどの地域に暮らしていても公平に図書館サービスを利用できる環境になっているのか、という現状は記載しておくべきです。具体策として実現できるかどうかは別として、現状を整理して記載いただきたいと思います。

【委員】
皆様のお話を伺っていて、ワークショップの結果等を見せていただきましたが、湖南市の図書館を取り巻く状況、人口動態と財政環境は今こうですよ。だから、どうしようっていうのはこの後出てくるというような捉え方になってくるのですか。出された意見をすべて計画に盛り込むことは難しく、ある程度、共通する意見をまとめることになると思います。
個人的な意見ですが、私は図書館から遠い地域に住んでいますので、すぐには実現できなくても、将来はこうしたいという方向性が記載されているとよいと思います。うまくまとまりませんが、以上です。

【委員】
資料を読ませていただき、先ほどからのご意見にもありましたが、これまでの委員会で基本方針や基本目標を検討してきました。また、ワークショップやアンケートも実施されています。以前、リニューアル基本構想を作成したときにも、アンケートを行ったと思います。
これらの意見や調査結果を踏まえ、基本理念や基本目標の下にある施策、具体的な取組

の中に、市民の意見やワークショップで出た意見を整理して反映させてはどうでしょうか。

現状として、どのような意見が出ているのかを示すことが必要だと思います。そのうえで、行政として現時点で実施できる改修や取組、将来に向けて検討することなどを整理することになると思います。

すべての意見を実現することは難しいかもしれません。しかし、市民の意見が計画のどこに、どの程度反映されているのかが、現在の案では見えにくいと感じます。その点を整理する必要があると思います。

【会長】

ありがとうございます。委員の様方から、９ページの記述に、図書館の状況がもう少し分かる内容を加えてはどうかとのご意見がありました。私からも提案ですが、９ページの見出しを「市の図書館を取り巻く状況と図書館の動向」とするなど、図書館の運営環境と巻末の統計データとの関係を整理し、現在の状況が分かるようにしてはどうでしょうか。

たとえば、貸出密度が国の平均と比べてどうかなど、あくまで例ですが、現状の概要が分かる記述があるとよいと思います。見出しも含めて検討いただくと、全体の見通しがよくなるのではないでしょうか。

また、第４章の具体的な取組についても、ちょっと具体的といいながら少し具体的には記述がちょっと弱いと思ったので、アンケートやワークショップでいただいた意見を含め、どのように反映していく予定なのか、事務局に伺いたいと思います。

【事務局】

16 ページの見出しについては、何を指すのか分かりにくいというご指摘を踏まえ、表現を改めます。

ワークショップやアンケートには、さまざまな意見が寄せられています。たとえば、図書館で静かに過ごしたいという方もいれば、会話をしたいという方もいらっしゃいます。空間を区切ることで両方を実現できる場合もありますが、条件によっては両立が難しい場合もあります。

計画を作成する際には、いただいた意見を踏まえて内容を検討します。一方、寄せられた意見そのものは、貸出冊数や蔵書数などの資料とあわせて、資料編に掲載するなど、記載方法を工夫したいと考えています。

【委員】

意見の取扱いについては、個別の意見について採用・不採用があるわけではないので、すべての意見を大切に扱ったということが伝わればよいと思います。

【会長】
ワークショップなども図書館行政の活動の一つです。情報公開の観点からも、どのような意見があったのかをつまびらかに公表することが望ましいと感じます。意見の内容を、事実として記載していただけるとよいと思いました。
それでは、第３章「基本理念」、20 ページから 24 ページまでについて、ご意見をお願いします。

【副会長】
20 ページには三つの項目があり、左下に「本に出会う場所」「交流と発信の場」といった表現があります。一方、本文を読むと、「交流と学びの場としての役割」と書かれています。これまで「人と知と文化が交わる場」という表現を使いたいという議論があったと思います。ページによって用語が異なっていますので、統一していただきたいです。
二点目は、23 ページと 24 ページの体系図についてです。体系図を先に示し、具体的な記述を後にするなど、ページ構成や見せ方を工夫してもよいと思います。
第３章から第４章にまたがることになりますが、22 ページの「基本方針に基づく五つの基本目標」と、25 ページ以降の具体的な取組を見比べると、基本目標に書かれている内容が、具体的な取組に十分反映されていないように感じます。たとえば、22 ページには「市内における読書環境の充実を図ります」とあります。しかし、25 ページには、それに対応する具体的な記述が見当たりません。基本目標に書かれていることが、具体的な取組ではどうなっているのか分かりにくいです。
同じ内容を何度も繰り返して書くことで、記述のずれが生じているのではないでしょうか。体系図や表の構成を整理し、基本目標から具体的な取組へと順に追えるようにすると、全体が分かりやすくなると思います。

【事務局】
同じ内容を繰り返し記載することで、記述にずれが生じるというご指摘は、そのとおりだと思います。もう少し簡潔で、分かりやすい形に整理します。

【委員】
21 ページの基本方針についてです。これまで提案していただいていた内容に対して、今になって異なる意見を申し上げて恐縮ですが、二つ目の「癒やしや育みの居場所づくり」という表現に違和感があります。
行政計画に「癒やし」という言葉を使うことが適切なのかという点です。理由は、「癒やし」は個人の受け止め方や感情に関わる言葉であるため、基本方針の柱にするには少し曖昧ではないかという点です。
大きな方向性としては、人と人とのつながりをつくる場があり、そこから人が育まれて

いくという考え方であると思います。「つながり」や「育み」を表現に加えることも考えられるのではないでしょうか。

【会長】
ありがとうございます。「癒やし」は個人の内面に関わる言葉なので、基本方針の柱にすることに違和感があるというご意見ですね。代わりに「つながり」や「育み」を使ってはどうか、というご提案と受け止めました。
つながりがあれば、癒やしを必要とする方にとっても、必要な関係性が生まれるというイメージが持てるというご意見でもあると思います。事務局はいかがでしょうか。

【事務局】
ありがとうございます。二つ目の説明文には、「リラックスできる環境」や地域とのつながりを深めることなど、幅広い意味を含めています。
ただ、表題の「癒やしや育みの居場所づくり」は少し曖昧な表現になっていると思いますので、修正や加筆を含めて検討します。

【会長】
ありがとうございます。これまで特に異論がないものとして進めてきた箇所ではありますが、今回ご意見をいただきましたので、事務局で検討をお願いします。

【副会長】
20 ページ下部の注釈で、「ウェルビーイング」という言葉が解説されています。訳すのは難しい言葉ですが、今日的な課題であり、今後も大切にされる概念だと思いますので、使用すること自体はよいと思います。「癒やし」という言葉も、そこから出てきたのかもしれません。ただ、委員がおっしゃったように、「つながり」という言葉の方が具体的で、内容が伝わりやすいと感じました。一方で、基本方針の「交流と発信」と「つながり」は、意味が異なる部分もありますので、どのように住み分けるかは課題だと思います。
また、22 ページ、④の「誰もが利用しやすい快適な環境づくり」がこの「癒やしや育みの居場所づくり」にあり、「市民協働による価値の共創と多文化共生の推進」は、「交流と発信の創造空間づくり」に位置づけられています。しかし、「外国籍住民をはじめとする多様な人々が共に暮らす地域特性を活かし」は、まさに「つながり」に関わる内容です。「癒やし」を「つながり」や「育み」に変えるのであれば、この項目を④に移し、「高齢者や障がい者をはじめ誰もが利用しやすい」と並べるのがよいのではないかと思いました。

【会長】
ありがとうございます。複数の要素が関係する議論になってきました。基本方針の柱と具体的な内容が、明確に分けられるとは限りませんが、ここまでのご意見について、事務局はいかがでしょうか。

【事務局】
ありがとうございます。22 ページの項目との関係も踏まえ、多文化共生の推進を上に移すというご意見については、前後の内容とのつながりを考えると、その方が整理しやすい可能性があると感じました。どこに位置づけるのがよいか、改めて整理します。

【会長】
「つながり」という考え方もある一方で、「居場所」には、落ち着いて過ごせる場所やリラックスできる環境という意味も含まれています。
「癒やし」という言葉だと、癒やしを必要とする人の心理状態を限定して捉えるようにも感じられますが、「安らぎ」であれば、誰にとっても必要なものとして受け止められるのではないでしょうか。「癒やし」の代わりに「安らぎや育みの居場所づくり」なども考えられると思います。
ご提案として受け止めて頂き、事務局で「つながり」や「安らぎ」などの表現を含めて検討いただければと思います。

【委員】
24 ページの基本施策について確認です。具体的な取組が記載されていない箇所がありますが、ここはまだ途中段階という理解でよろしいでしょうか。

【事務局】
24 ページの「具体的な取組」という欄は、現段階では、基本的な方向性を示すための記述です。内容を補う可能性はありますが、より細かな取組については、第４章以降に記載する構成を想定しています。

【会長】
そうしましたら、24 ページの表題は「具体的な取組」ではなく、第３章の基本理念に関する「取組の方向性」や「基本的な柱」など、もう少し概念的な内容であることが分かる表現にすると、第４章との整理がつくと思います。

【副会長】
会議の前に配付された資料に、「湖南市らしい図書館について」がありました。資料を

配付された意図を説明していただけると、意見を述べやすいと思います。

【事務局】
本日、「第３回策定委員会で協議・ご意見いただきたいこと」という資料を配付しました。その中に「湖南市らしい図書館について」という項目があります。
第１回の会議から、会議ごとに何を主題として話し合うのか、どこを着地点とするのかを明確にするため、１枚の資料を作成しています。
本日は、基本計画案に沿ってご意見をいただいています。ワークショップや市民アンケート、中高生アンケートについては、経過や結果の報告が中心になると思いますが、「湖南市らしい図書館について」は、委員の皆様からご意見をいただきたいテーマです。

【副会長】
確認ですが、「これが事務局の考える湖南市らしい図書館です」という姿は、資料のどこに書かれているのでしょうか。教えてください。

【事務局】
湖南市では、障がいのある方への配慮や、多文化共生の推進が重要な課題の一つです。湖南市には障害者施設が多くありますので、図書館としてどのように関わることができるか、検討する必要があります。
また、湖南市は外国籍市民の割合が高い市です。外国籍の市民にもサービスを提供することなど、湖南市立図書館としてどのようなサービスを行うかという点に、湖南市らしさを表していければと考えています。

【会長】
それでは、第３章について、ほかにご意見はありますか。よろしいでしょうか。
続いて、第４章「基本施策と具体的な取組」について伺います。25 ページから 29 ページまでです。
先ほど、22 ページの基本方針の説明文と似た表現があり、具体的な展開に十分つながっていないのではないかというご意見がありました。事務局からは、見直すとの回答がありました。ほかにご意見はありますか。

【副会長】
25 ページの「幅広い資料の収集と保存」についてです。電子書籍も普及しており、図書館で扱うものは紙の本だけではないと思います。
たとえば、アール・ブリュット作品を展示するコーナーがあってもよいと思います。また、湖南三山などの地域に不可欠な郷土資料の展示なども考えられます。湖南市が他地域

に誇れるものを収集するという視点や、地域に関わる郷土資料について、もう少し具体的に記載してもよいのではないでしょうか。

たとえば、協力を得られるのであれば、野呂先生の作品集、ご本人が所蔵されている原稿などを図書館で受け入れ、展示することも考えられます。また、近江学園の「この子らを世の光に」という思想に基づいた資料を収集することもできるのではないでしょうか。どこまで計画に書くかは検討が必要ですが、「地域に不可欠な郷土資料」という表現だけでなく、もう少し具体的にできるとよいと思います。

また、指標として「関係課との連携事業実施数」を掲げるのが適切か、疑問があります。先ほど申し上げたような郷土資料の充実を指標とし、資料がどれだけ増えたかを目標にする方がよいのではないでしょうか。

26 ページの指標についても意見があります。湖南市の特色として、公共図書館とは別に学校図書館支援センターが設置されています。これは県内の他市町にはないと聞いています。この支援センターは、学校の読書活動や授業を通じた深い学びに貢献しています。公共図書館が学校図書館支援センターにどれだけ資料を提供したか、といったことを指標にするのも一案ではないでしょうか。情報提供の充実に関する指標とするのか、27 ページの学校・園との連携に関する指標とするのかは検討が必要ですが、他の指標についても、もう少し案を出し合い、時間をかけて協議する必要があると思います。

【委員】

特に 26 ページについて、確認させてください。指標は「実利用率」だけが掲載されていますが、これは職員の資質向上に関する目標なのでしょうか。それとも、資料の充実やレファレンスサービスの充実など、上に記載された複数の項目に関する目標なのでしょうか。

職員の資質向上に関する目標であれば、ほかにも指標として挙げるべきものがあると思います。来館者数や実利用率が、職員の資質向上と直接結びつくとは限りません。

何を指標として設定するのか、館内で改めて検討していただきたいです。一つだけでなく、複数の指標が必要だと思います。

また、定量化できるものと、できないものがあります。数値が上がったからといって、サービスの質が向上したとは限らず、必ずしも相関関係があるとは言えません。指標を扱う際には、その点に十分注意していただきたいです。

もう一点、25 ページの「連携」についてですが現在、どのようなイベントや行事を連携事業としているのか、定義は明確になっていますか。

連携事業の範囲が曖昧なままでは、何を数えるかによって数値が変わり、恣意的になってしまうおそれがあります。どのような取組を連携とするのか、定義が明確になっているか確認したいです。

【事務局】
第４章の数値目標については、たとえば 26 ページの実利用率を、前回の委員会で挙げました。また、その下にある「事業に対する市民満足度」については、まだ数値を設定していませんが、貸出率だけではなく、アンケートを実施して満足度を調査してはどうかというご意見を前回いただいたため、項目として加えています。
数値指標については、まだ完成度が十分ではありません。今後、皆様からいただいたご意見も踏まえて、項目を増やしたり、内容を検討したりしていく段階です。
25 ページの連携については、現在、「関係課との連携事業の実施数」を挙げています。ご提案いただいたアール・ブリュットの展示や写真展のほか、今後、発達支援室との連携による「未来のアーティスト展」なども予定しています。こうした行政側との交流や連携を、実施数として数えることを考えています。
ただし、どこからどこまでを連携事業として数えるかは、まだ明確にできていません。対象を市役所の関係課だけにするのか、地域や事業所などにも広げるのか、もう少し検討が必要だと考えています。

【委員】
指標は十分検討してください。特に図書館の分野では、人口 10 万人当たりの貸出冊数なども、指標として挙げるべきだと思います。
もちろん、それだけで評価できるわけではありません。しかし、まず基本的な指標を設定する必要があります。実利用率は一度決まると変更されないこともありますので、慎重に検討してください。
比較対象としては、滋賀県内の図書館の平均値を入れてほしいです。全国の図書館の平均値だけを比較対象にするのは避けてください。全国平均は、必ずしも適切な比較対象ではありません。滋賀県内の図書館は一定の水準以上にあると思いますので、県内の平均と比べてどうかを示すようにしてください。本日の会議では「全国の図書館」という言葉が出ましたが、全国と滋賀県では図書館の状況が異なることに留意してください。

【会長】
ありがとうございます。実利用率について、いったん決めると変動しないという趣旨のご発言がありましたが、実利用率は変動する指標です。
1 年間に少なくとも一度貸出しを受けた市民の数を集計するものです。これまで借りていなかった方が新たに利用すれば、実利用者が増え、市民に占める割合も上がります。利用促進の取組や広報の方法によって変動する数字です。

【委員】
失礼しました。変動しないと申し上げたのは、過去の傾向を踏まえると、数字が変わり

にくいという趣旨でした。分かりました。

【委員】
　どの箇所で質問するのがよいか迷っていましたが、基本施策と具体的な取組について意見を申し上げます。
先ほども報告がありましたが、若年層の貸出しが減っています。単に貸出しが減っているだけでなく、図書館に行きたいと思っても行けない状況があることが、最も大きな課題だと思います。
　特に中学生や高校生が図書館を利用したくても、利用する手段がないという話は、前回も申し上げました。移動手段の改善も含めて考えていただきたいです。
　アンケートにも、若い人が気軽に図書館へ行けて、一日そこで勉強できる環境がほしいという意見があったと思います。そうした利用環境を整えることが必要です。
　先ほど、市の基本計画の中で図書館がどのように位置づけられているかを質問しました。新たな図書館基本計画をつくるのであれば、図書館をどこにどのような形で整備するのか、あるいは図書館機能をどのように維持するのかということも考える必要があります。
　地域との連携についても、まちづくり協議会との連携だけでなく、企業との連携、学校との連携など、具体的に考えられることがあると思います。図書館について、地域住民が利用したり参加したりできるのかなども含め、図書館の役割を多面的に考える必要があります。
　今回の計画では、第５章に甲西図書館のリニューアルが記載されています。しかし、石部図書館や地域コミュニティ全体について、どのような方向性を示そうとしているのかが、私にはよく分かりません。どのように質問すればよいのか迷っていましたので、説明をお願いします。

【事務局】
　地域との連携については、今月末に地域へ伺い、地域に必要な読書環境や、地域との相互協力の可能性についてお話を聞く予定です。その内容を計画に反映したいと考えています。
　現時点で、事務局の考えだけで「このような取組を望んでおられるはずだ」と記載するのは適切ではないと考えています。まずは地域の方々からお話を伺い、その内容を文章にまとめていきたいと思います。

【委員】
　図書館は、すべての市民が必要なときに身近に利用できることが大切です。図書館の存

在に気づいていない人にも、アウトリーチ型の活動を通じてサービスを届けていくことが、これからの図書館活動に求められると思います。

26 ページには、「情報提供の充実」や「利用者がより身近にアクセスできる環境」という記述がありますが、こうしたことは図書館の基本的な役割です。どのように実現するのか、施策も含めて具体的に示してほしいと思います。

将来的に新しい建物を建てる方法もあるでしょうし、今ある施設を改修して機能を増やす方法もあるでしょう。さまざまな施設と連携するネットワーク型の方法や、市民参加による取組も考えられます。こうした点を会議で検討できればと思います。

関連して、書店やブックカフェとの連携のような取組も、今後の計画に取り入れられると思います。購入しなくても、地域の身近な場所で本に触れたり、人々が集まったりできるような場をつくることができるかもしれません。

市民が参加できる催しを行ったり、活動や拠点をネットワークでつないでいくと、計画に新しさや将来性が出てくると思います。

【事務局】

ご意見を伺い、そのような取組ができればよいと感じました。

地域との連携については、居場所を設ける場合には場所が必要です。移動図書館でどこまで対応できるか、地域のまちづくりセンターに本を置くスペースがあるかなど、検討すべき点があります。

地域の方々のお話を伺いながら、実現可能な取組を計画に盛り込んでいきたいと思います。

【副会長】

確認ですが、先ほどの「市全体の読書環境」について、第５章の前に新たな章を設け、次回提示するという理解でよろしいでしょうか。

その際には、委員の皆様からご意見のありました「将来の展望」「アクセスの問題」「ブックカフェ」などについても、甲西図書館のリニューアルですぐに実現できるかどうかは別として、将来の図書館の姿として示されることを期待してよろしいでしょうか。

【事務局】

はい。

【嶋田会長】

ありがとうございます。ほかに第４章についてご意見はありますか。

【小野田副会長】

29 ページについてです。「交流と発信の創造空間づくり」にある「市民協働」は、大切な視点だと思います。

読書活動について、私はさまざまな場で、本を読むことで情報をインプットするだけではなく、それをアウトプットすることも含めて読書活動であると話しています。

同じように、図書館で得た学びを、市民が発信できる機会を確保することも大切です。発信する機会を保障するという視点を、29 ページに書き込んでほしいと思います。

【会長】

ありがとうございます。図書館法第３条第８号に関わる内容でもあり、学びの成果を発信することは非常に大切だと思います。

先ほどから何度か言及がありましたが、30 ページからの第５章について、ご意見を伺います。

館長からもお話がありましたが、私も、第５章の前に、図書館サービスのあり方など、より上位の考え方を示す章があってもよいと思います。そのうえで、第１節に湖南市全域のサービスやサービスポイントについて、第２節に甲西図書館の具体的な内容について記載する構成にできるとよいのではないかと思いながら、皆様のお話を伺っていました。

第５章の構成や、リニューアル基本計画の内容について、また、先ほどご意見があった全体の章立てについても、皆様からご意見を伺いたいと思います。

【委員】

「甲西図書館リニューアル基本計画」と書かれている部分について確認したいです。この内容を図書館基本計画に統合するという意味でしょうか。私は、別にした方がよいのではないかと感じています。

図書館リニューアルは、図書館基本計画に基づく具体的な施策の一つだと認識しています。そのため、基本計画とは別に、基本計画に基づく具体的なリニューアル計画としてまとめる方がよいのではないでしょうか。

【会長】

ありがとうございます。リニューアルは具体的な計画なので、別立てにした方がよいのではないか、というご意見ですね。これについて、ほかの皆様はいかがでしょうか。

【事務局】

計画の構成としては、おっしゃるとおりだと思います。

ただ、湖南市では、甲西図書館のリニューアル基本構想を昨年度に先行して作成したという経緯があります。図書館基本計画ができるまで、せっかく作成したリニューアル基本構想を何年も置いておいたり、先延ばしにしたりすることのないように、というご意見も

いただいていました。
図書館基本計画の中で市全体の図書館の方向性が決まれば、リニューアルに必要な内容も見えてくると考えています。そのため、今回は章を分けたうえで、図書館基本計画とリニューアル基本計画を一つの計画としてまとめ、提示しています。
リニューアルについては、今後、基本設計や実施設計などの事務的な作業もあります。今回の基本計画では、図書館基本計画とリニューアル基本計画が一連の流れで進むものとして、現時点での大まかな方向性をまとめています。

【会長】
今の説明を伺って、31 ページの「リニューアルの前提条件」に疑問を感じました。２行目に、「経年劣化した内装・設備を更新する機能更新型のリフォームとして実施する」とあります。
この記述を読むと、機能拡充型や機能発展型のリノベーションではなく、施設の長寿命化を目的とする改修だと理解します。今後、図書館全体の方向性に沿って内容を決めていくという説明と、ここに書かれている内容との間に、食い違いがあるように感じます。

【事務局】
甲西図書館のリニューアルでは、現在より床面積を広げる計画ではありません。敷地にも限りがあります。そのため、現在の延べ床面積の中で、使い方をどのように工夫するかを基本的な前提としています。その意味で、このような記載にしています。

【会長】
床面積は現在のままということですね。先ほどから、静かな空間をつくりたいという要望と、にぎわいのある空間にしたいという要望の両方があると話題になっています。たとえば、仕切りを設けて、静かな読書室をつくることも考えられると思います。私の勤務先である大学でも、ガラス張りの空間を設け、音を遮る工夫をしています。
大規模な工事をしなくても、できる改善はあると思います。そのような改修も検討の対象になるのでしょうか。それとも、水回りや空調の更新などに限るのでしょうか。

【事務局】
ガラスなどで仕切り、静かな空間をつくることについては、建築上可能であれば選択肢になると思います。
具体的な設計に入った段階では消防法などとの関係で、この建物の中に設置できるかどうかという話もあります。可能であれば、そうした方法も視野に入れていきたいと思います。

【委員】
私も、会長がおっしゃった点について懸念があります。
限られた財政環境や、市全体の公共施設の更新状況を踏まえる必要があることは理解しています。また、もともと甲西図書館のリニューアル基本構想があり、議会に提出された後、見直しを求められた経緯があると思います。
しかし、現在の案を見ると、ここで枠がはめられているように感じます。館長のお話にもあったように、ハード面では増床が難しく、現在の面積の中で工夫するという枠組みが、すでに決まっているように見えます。
策定委員会で計画をつくる段階では、そうした枠組みにとらわれずに考えることも必要だと思います。現実的に、教育委員会の立場や、実際に事業を進めるうえで妥協が必要になることは理解しています。ただ、現段階で前提条件を示すことで、最初から選択肢が限られているように感じました。
リニューアルにあたっては、建築関係の専門家やコンサルタントなどから、レイアウトの変更や各スペースの配分について意見を聞くこともできると思います。事務室などを含めて配置を工夫すれば、必要な場所を確保できる可能性もあります。増床が可能かどうかについても、検討の余地があるのではないでしょうか。
当然、費用や敷地、建物の構造上の問題はあると思います。しかし、市民が求めているものをどこまで実現できるかという視点を中心に考えることが必要です。
リニューアル基本計画の中で前提条件を定めてしまうと、発想が制限されてしまうように感じます。もう少し大きな可能性も検討できないかと思いました。

【委員】
確認ですが、この策定委員会では、基本理念を踏まえて、甲西図書館のリニューアル基本計画をつくっていくという理解でよろしいでしょうか。

【事務局】
甲西図書館リニューアル基本計画の章は、昨年度策定した基本構想をもとに、これまでいただいたご意見などを、もう少し具体的に記載したものです。
図書館基本計画を策定するにあたっては、基本計画とリニューアル基本計画の内容が整合するようにする必要があります。そのため、今後も基本理念などとの整合が取れるよう、内容を変更する必要があると考えています。
一方、建物の面積を変えずに、どの程度工夫できるかについては、消防法などの関係法令もあり、希望する内容をすべて実現できるとは限りません。基本計画と矛盾しない形でリニューアル計画をまとめる必要がありますが、具体的な改修内容については、私自身も専門的な知識が十分ではなく、現時点では判断が難しいと感じています。

【委員】
30 ページについて、もう一度確認させてください。基本構想をもとに、策定委員会で検討した湖南市図書館の基本方針を踏まえ、甲西図書館のリニューアル基本計画をまとめるということですよね。
先ほど、森北公園や文化ゾーンとの連携についてもお話がありました。甲西図書館のリニューアルについて、どこが中心となって進めるのか、教育委員会が担当するのか、よく分からないところがあります。
策定委員会では、これまで検討してきた三つの基本方針や五つの目標に基づいて、リニューアルの内容についても議論するのでしょうか。それとも、カフェがほしいという意見など、施設の具体的な機能についても議論するのでしょうか。
今のスペースの中で、すべてを充実させるのは難しいと思います。必要に応じて新たな整備も必要になるかもしれません。委員会でどこまで議論するのかが、よく分かりません。
リニューアル計画では、基本方針や基本目標に基づいて、甲西図書館で担う役割を議論するということでしょうか。委員会での検討範囲について説明をお願いします。

【事務局】
図書館基本計画の中のリニューアル基本計画で、「カフェを設置する」「具体的にこの部屋をつくる」といったところまで決めるのは難しいと考えています。
まず、湖南市全体の読書環境を考え、その中で甲西図書館がどのような役割を担うのかを整理します。その役割を果たすために、どのような空間や機能が必要かというイメージを計画に記載することになると思います。
「何々室をつくる」といった具体的な内容については、法律上の問題や費用の問題もありますので、現段階ではそこまで決めるのではなく、必要な機能を持たせるという方向で記載することになると考えています。

【委員】
そうすると、策定委員会でどこまで具体的な議論をするのか、もう少し明確にしていただきたいです。
市長が決めるのか、担当部局が決めるのかも含めて、委員会が何を議論するのかが分からないと、委員としてどのような意見を出せばよいのか判断しにくいです。
基本方針や基本目標については、委員会で議論してきました。リニューアル計画についても、具体的な内容を提示していただき、それを議論するということであれば、そのように進めていただければよいと思います。
ただ、甲西図書館だけですべてを担うことは難しいと思います。そうであれば、甲西図書館のリニューアルで、最低限どのような役割を担うのかを示す必要があると思います。

【事務局】
おっしゃったように、甲西図書館がどのような役割を担い、どのような課題を補うのかを整理する必要があると思います。それが、図書館基本計画とのつながりを持ったリニューアル基本計画になると考えています。

【会長】
ありがとうございます。残り時間が５分ほどになりました。まだ議論が十分に尽くせていないと思いますので、第４回にまた詰めてということでよろしくお願いいたします。事務局から説明が必要な事項もありますので、その時間を確保したいと思います。今の議論の流れで、今日のうちに発言しておきたいことがあればお願いします。

【委員】
先ほどの私の冒頭の発言について、少し補足させてください。私が申し上げたかったのは、第５章の内容をすぐに追加するということではありません。第５章で今回扱う内容を審議したうえで、すぐに着手できない課題や、今回の委員会で取りこぼした課題を、第６章などに「今後の課題」として記載してはどうか、ということです。
次回、５年後などに図書館基本計画を改定するとき、次の委員の方々が検討できるように、今回の議論で残った点を引き継いでほしいという趣旨で発言しました。
この話が少し広がってしまいましたが、事務局に、現時点で対応できないことまで責任を持ってもらいたいという意味ではありません。

【会長】
ありがとうございます。おっしゃるとおり、「今後の課題と展望」という形で整理するということだと理解しました。
一方で、この計画は湖南市図書館基本計画ですので、湖南市全体の図書館の姿を示す必要があります。その中に甲西図書館のリニューアルを位置づけるとともに、今回扱いきれなかった課題についても、どこかに記載できるとよいと思います。
第５章の内容を削るということではなく、第５章を生かしながら、その前の章などで市全体の姿を示す必要があると考えています。
ありがとうございます。時間が迫ってきました。ほかに、本日中に発言しておきたいことはありますか。

【副会長】
少し不安に感じていることがあります。委員会はあと２回で、そのうち最終回は、市民の皆様からの意見を受けて最終調整をするような会議になるのではないでしょうか。そう

すると、実質的に議論できるのはあと１回になると思います。
先ほどお話があった、市全体の読書環境に関する新しい章が示される予定です。また、今後の展望や課題、ワークショップやアンケートの意見をどのように分析し、計画に反映するのかも検討する必要があります。
これらを次回の１回だけで議論できるのか、心配しています。計画はいつまでに結論を出さなければならないのでしょうか。当初は今年度中とうかがっていたと思います。
今年度中にまとめるのであれば、委員会をもう１回か２回増やしていただきたいです。来年度までかけてもよいのであれば、委員も余裕を持って議論に臨めると思います。急なことなので、すぐに決めるのは難しいと思いますが、今後の予定についてうかがいたいです。

【事務局】
この場で、今後の進め方を決定することはできませんが、皆様には毎回、深いところまで議論していただいています。今回の会議を受けて、計画案については、まだ修正や検討が必要な箇所が多くあると感じています。
当初は今年度中の策定を目指して進めると申し上げていました。しかし、今年度中に委員会の回数を増やす場合、本日お配りした資料に目を通していただき、意見をメールなどでいただく時間や、事務局が内容を検討する時間も必要です。
そのため、正直なところ、年度内にさらに１回または２回、委員会を追加することは、スケジュール上難しいのではないかと感じています。
どの進め方がよいかは、事務局だけでこの場で即答できるものではありません。もう少し話し合いの時間を確保できるよう、庁内で検討し、改めて回答させていただければと思います。

【事務局】
計画を策定するにあたり、策定委員会を立ち上げたときは、1 年で進める計画でした。しかし、1 年で終えるために委員会の回数を増やし、急いで計画を策定することは避けたいと考えています。
事務局としても、今後の湖南市の図書館のあり方を考えたうえで、しっかりとした計画をつくりたいと思っています。委員会の回数を増やすのか、年度をまたいで策定するのかについては、これまでの第２回、第３回の委員会で活発に議論していただいたことも踏まえて、検討したいと考えています。
また、図書館リニューアルについては、市全体の基本計画の中に位置づけられるものです。建物だけでは対応できないことについても、市全体の計画の中でどのように対応していくのかを検討していけばよいと思います。図書館基本計画は、公共図書館の建物を利用することだけを扱うものではありません。その点についても、引き続きご議論いただけれ

ばと思います。

【会長】
　その他、委員の皆様にお伝えしなければならない事項について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】
　これまで資料１をもとにご意見をいただいてきましたが、本日は別に資料２、資料３もお配りしています。資料２はワークショップで出た意見、資料３はアンケート調査の結果です。
　資料３については、まだ集計途中です。回収したアンケートの回答をそのまま整理した段階で、クロス集計などはまだ行っていません。まずは、どのような意見が出ているかをご確認いただければと思います。
　内容を読み込んでいただく時間が必要ですので、資料をお持ち帰りいただき、意見がありましたらメールでお寄せください。
　特に、「計画に反映すべき大切な意見ではないか」という視点や、同じような意見が複数寄せられている箇所などについて、ご覧いただいたうえでご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

【会長】
　事務局から、今年度内に限って議論を進めるのではなく、今後の進め方も含めて検討するとのお話がありました。委員の皆様には、次回の第４回までに、本日十分に議論できなかったことや、発言したかったことがありましたら、次回ぜひご発言いただきたいと思います。
　議事はすべて終了していませんが、時間の都合上、ここで事務局に進行をお返しします。

【事務局】
　活発なご意見をいただき、ありがとうございました。
　次第では「先進地視察について」を議事として挙げていましたが、まだ議論が十分に尽くされていないため、もう少し先に見送りたいと思います。
　会長、進行をありがとうございました。委員の皆様にも、忌憚のないご意見をいただき、ありがとうございました。
　そのほか、次回の日程について調整します。12 月後半頃を予定しています。候補日をメールでお送りしますので、ご都合をお知らせください。

３．閉　　会

［副会長あいさつ］